

ARIBの動き

第20回PHS MoU総会が開催される

第20回PHS MoU総会が8月22日からMelia Hotel (ベトナム、ハノイ) において、中国、台湾、米国、日本等の国、地域及びベトナム国内から84名の出席のもとで開催されました。

総会では活動報告、事業計画等の審議及び講演が行われ、また、23日のワークショップではPHSシステムの新技术の紹介やベトナム国内にとって魅力ある技術の情報交換がなされ、2日間を通して参加者は相互交流を深めました。また、24日は活動の場をホーチミンに移し、ホーチミン市内のベトナム電信内において幹部の方々とPHSのベトナム国内でのさらなる発展のための会合がおこなわれました。以下にその概要を紹介します。

- (1) ワーキンググループ会合：総会の前後に、Technical WG及びBusiness WGの各会合が開かれ、新しい世代のPHSについての活動成果及び計画が確認されました。
- (2) 総会：Sam Endy氏による開会挨拶に引き続き、来賓の中からFon氏(ベトナム電信)及び吉田二等書記官(ベトナム大使館)から祝辞をいただきました。総会では、活動報告、事業計画、次世代PHSの規格、新加入メンバー等が承認されました。
- (3) 23日のワークショップ：ウィルコム、UTStarcom、ZTE、LUCENT及びArrayCommの5社から6件の講演があり、活発に質疑応答が行われました。

なお、詳細は後日PHS MoUグループのメールマガジン及びPHS MoUグループのホームページ<<http://www.phsmou.org/>>に掲載されます。

(注：PHS MoUグループはPHSの海外への普及促進支援のための任意団体で、現在は加盟メンバー72社です。ARIBはPHS MoUの事務局を務めています。)



第20回PHS MoU総会の様子



在ベトナム日本大使館
吉田二等書記官の祝辞

第124回技術委員会(通信分野)が開催される

第124回技術委員会が開催されましたので、その概要をお知らせいたします。

1 日時 平成18年8月23日(水) 午後4時から6時まで

2 場所 当会第2会議室

3 議事概要

- (1) 事務局から、ARIBが事務局を務める任意団体の動向について報告がありました。
- (2) 事務局から、高度無線通信研究委員会及び電磁環境委員会の活動状況について報告がありました。
- (3) 事務局から、ブラジルの地上デジタル放送方式の決定について説明がありました。
- (4) 事務局から、当会の最近の活動状況について説明がありました。

電気通信・放送
行政の動き

デジタル・ディバイド対策全国シンポジウム 無線を活用したブロードバンド整備の新戦略を考える 全国に広がる先進事例と今後の展望 配布資料について

総務省では、平成18年7月5日に標記シンポジウムを開催し、340名以上の方からご参加をいただきました。

当日、ご参加頂けなかった方のためにも、会場において配布した資料についてホームページに掲載しますので、ご参考にして頂けたら幸いです。

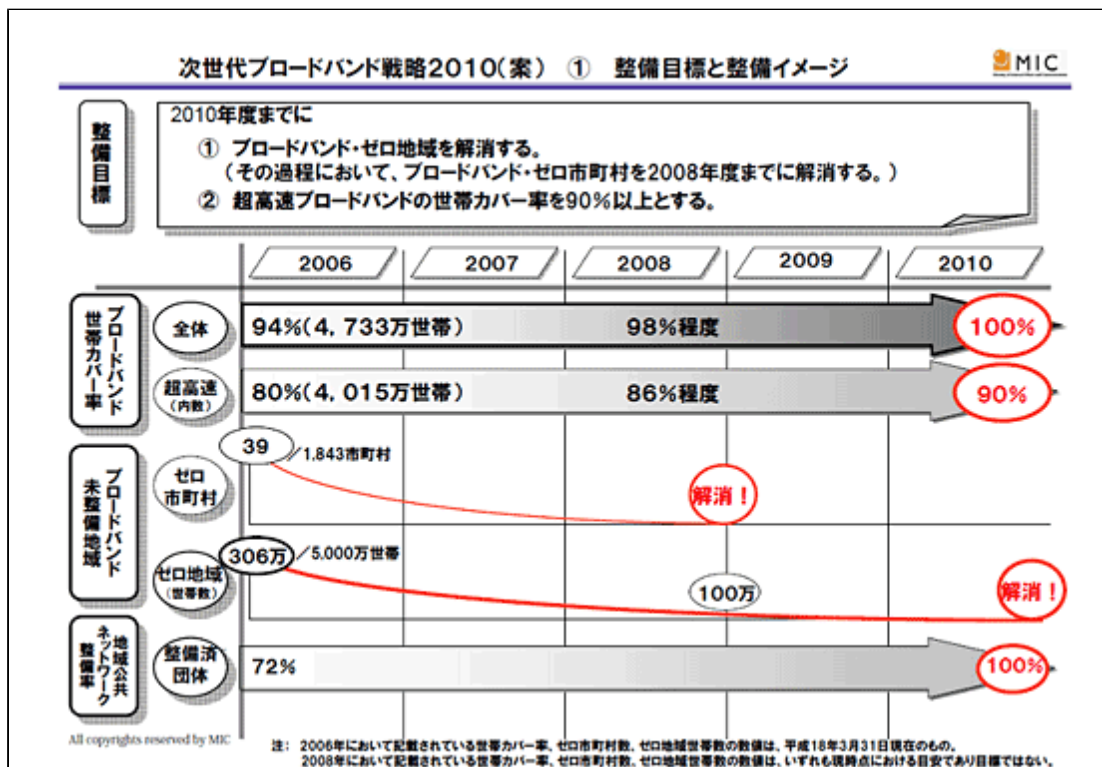
1 総合通信基盤局高度通信網振興課資料「2010年へ向けた次世代ブロードバ

ンド戦略」

- (1) 整備目標と整備イメージ
- (2) 今後の整備の在り方
- (3) 役割分担
- (4) 関係者による推進体制

2 総合通信基盤局基幹通信課資料「無線を活用したブロードバンド整備の新戦略を考える」

- (1) なぜいま無線LANなのか
- (2) 無線を活用したブロードバンド整備の3つの類型
- (3) 全国に広がる先進的な取組事例
- (4) ラストワンマイル（加入者回線）型の事例
- (5) ホットゾーン（面展開）型の事例
- (6) 離島・山間地向け中継回線型の事例
- (7) 総務省の取組
- (8) 無線を活用したブロードバンド整備（まとめ）



総合通信基盤局高度通信網振興課資料
「2010年へ向けた次世代ブロードバンド戦略」から

総務省の取組

1 普及啓発等

- 先進事例の紹介、活用モデルの提示
- シンポジウム、セミナー等の開催
- 地方における導入調査、実証実験等の実施

2 支援措置

- 民間事業者への投資インセンティブの付与(基盤法)
- 地域情報通信基盤整備推進交付金

3 新システムの早期導入

早期導入に向け、技術的条件を情報通信審議会で審議中
(本年秋に答申予定)

総合通信基盤局基幹通信課資料

「無線を活用したブロードバンド整備の新戦略を考える」から

詳細については、<http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/060720_1.html>をご参照下さい。

新会員の紹介

平成18年4月1日から7月31日の間に、ARIB正会員となられた会社を紹介致します。

- (1) マーベルジャパン株式会社
- (2) ノーテルネットワークス株式会社
- (3) アルインコ株式会社
- (4) 住友電工ネットワークス株式会社
- (5) 中野エンジニアリング株式会社
- (6) ホーチキ株式会社
- (7) Gateway株式会社
- (8) アロシステム株式会社
- (9) サイレックス・テクノロジー株式会社
- (10) 双信電機株式会社
- (11) 株式会社ナノ・メディア

我が家が加入しているケーブルテレビ会社がようやく地上デジタルテレビジョン放送の再送信を始めたところに、タイミング良く？VTRが故障したため、HDDレコーダを購入しました。

デジタル放送とアナログ放送との画質・音質の差に関心があったのですが、リビングで3mほどの距離を取って視聴する限りでは大きな差が認められず、むしろ、従来の4：3アスペクト比のアナログテレビに表示される地上デジタル放送の16：9画面の映像が小さくなってしまふことが気にいらず、録画はアナログ放送の方で行うようになりました。

もちろん、16：9アスペクト比の大画面テレビを購入すればその不満が無くなるのはわかっているのですが、アナログテレビが故障するまで買い換える気になりません。

ブラジルの地上デジタルテレビジョン放送も、所有するアナログテレビにデジタルチューナ内蔵のSTBを接続しての受信から始めると聞いています。ブラジルでのデジタル放送のサービス開始時には、やはり表示映像が小さいという不満が出るのではないかと予想しています。

ところで、VTRでの録画には全く手を出さなかった家族が、操作がわかりやすいため、HDDレコーダの電子番組表(EPG)から録画予約を行うようになりました。デジタル放送とアナログ放送の違いをほとんど認識していないためと思われるが、決まってデジタル放送を録画予約しています。そして、表示映像が小さくとも、不満を漏らすでもなく視聴しています。

編集子の方がこだわりすぎなのではないでしょうか？

(編集子:PAO)

[ページの先頭に戻る ▲](#)